

# 教宣 せぶん

## 思い切りの良さ

「全損保さんという組織はすごいですね。労働関連の裁判に司法がなかなか勝利判決を下さないという状況のなか、勝利判決をかちとったことはもちろんですが、何がすごいかって、勝利判決が出た直後に、すでに『東京海上日勤は裁判所の判決を守れ』というノボリが立っていたことです。」

「2週間総行動」の中で、多くの他団体の方々から連帯や激励のご挨拶を頂いたので、どなたの、こういった場面でのお話しだったか詳細は忘れてしまいましたが、これはその中での言葉です。

もちろん、私たちは勝利判決が出されるという確信を持っていましたし、「勝訴」が示されるという前提で物事が動いていました。しかし、「ミズモノ」と言われる裁判です、何が起こるかわかりません。100%の確信などなかなか持てない状況のなか、100%の確信を持っていたことに「敬意を表します」というお話しでした。勝利判決が下されなかったとしたら、あのノボリはすべて無駄になってしまうという状況のなか、ノボリを準備していた、その思い切りの良さに「脱帽した」というご挨拶の趣旨でした。

確かにノボリが水の泡になってしまうリスクを考えれば、勝利判決が出された後に勝訴用のノボリを用意するという行動をとった方が「安全策」だったかもしれません。しかし、このたたかひの指揮官は、何の迷いも躊躇もなく、勝利判決が下される前に、ノボリを注文していたのです。判決直後からスタートする、会社に判決を守らせる「2週間総行動」に打って出る強力な「アイテム」を用意したのです。私たちのたたかひの指揮官が、どれだけのエネルギーや情熱を傾けてこのたたかひに臨んでくれているかが、この「勝訴」のノボリを発注した時期からも、あらためて想像がつかます。

その指揮官の一人でもある方が「この日勤外勤支部のたたかひに命をかける」と発言して下さっているということを人伝に聞きました。廻りめぐって聞いた話しただけに、余計に強い衝撃を受けました。まさに人間の生きざまが出るたたかひになってきたと思います。私たちにはこうした強力な味方がついてくれています。多くの仲間も応援してくれています。

会社は保険金不払い問題、保険料取りすぎ問題などの一連の不祥事でトップが交代するという節目を迎えています。当社経営に厳しい世論の視線が浴びせられているいま、東京地裁が法の力を与えた私たちの雇用破壊問題を、一人でも多くの方に訴える世論を巻き込む運動こそが、「解決」のカギを握っています。私たちも命がけでたたかひましょう。